

唐丹文芸

「さちぐさ」詠草

唐丹短歌会

夢に見し夫は無口に笑みて居り苦しき事も無きに涙は
紫陽花のつぼみに滲む藍の色朝陽に冴えて小庭はなやぐ

環 あき

澱みいる心もてあまし海際をつるきと呼ばれし道あるきおり
月の夜はつるき坊主の出やるとう言い伝わるを思い出しおり

上野 ウタ子

四代の(泰衡公)御霊に添いて八百ウ年直ももいろに蓮の華は咲き
みちのく月見坂こえ金色堂供養願文永遠に伝えん

磯崎 彬

あと十年生きる証の無きものを子が買いくれし十年日記
二人娘の背丈計りし柱傷五十年終て薄れしを撫づ
草を刈り防鹿網につまづきて老いしわが身がざまなく転ぶ

大津 秀子

三年世ごと桜まつりに忍ぶ亡父上下凛々と潮風植めて
向ひ山青葉連らなる文月の夕陽の舞ひに詩味そよぐらむ
少女期に照憲后の御歌を愛し歌詠む齡の今も

中嶋 多喜子

散り落ちし真紅の椿の花七つ並べて拝む妹の墓
彼岸会に参る子と孫待ちわびて冷凍庫に積むあれもこれもと

須具 美佐子

つれ添ひて五十余年ぞ夫の死を受け入れ難くひと年が過ぐ
灯籠にあかりを灯しおはやうの言葉で始るひとりの暮らし

高橋 昌子

写経の すすめ

この度、左記日程にて写経会を開催いたします。

現代に生きる私たちは、写経と云う浄行によって、静かな落ち着いた時間を大切にすると共に、祈りや願いを生活の中に生かしてゆく一つの証しとしたいものであります。誰にでも簡単に出来ますので、気軽に参加下さい。

記

- ◎毎月第一土曜日。
- ◎夜七時より本堂に於いて。
- ◎会費五百円（納経料・写経紙代含む）
- ◎墨硯はお貸しします。
- ◎筆は写経用筆を各自ご持参下さい。
- ◎詳細は寺へ問合せ下さい。